

平成26年度第1回 にいがた住まいの基本計画推進有識者会議 会議速報

【開催概要】

- 日時 平成26年8月7日（木） 午前9時30分～11時20分
- 場所 新潟市役所 本館6階 第3委員会室
- 出席委員 委員長 五十嵐 由利子、副委員長 黒野 弘靖、委員 朝妻 邦夫、
委員 岩佐 明彦、委員 上野 香代子、委員 佐藤 由香子、
委員 高松 智子、委員 林 八寿子、委員 平松 勝、
委員 加藤 雅之、委員 池田 博俊、委員 遠藤 良博
- 事務局 住環境政策課 課長 川瀬 正之、課長補佐 清水 隆志、
課長補佐 石渡 一彦 他3名
委託業者（株式会社 サンワコン）3名
- 傍聴 0名
- 報道 0名

【会議概要】

1. 開会

（省略）

2. 新計画の策定の進め方について（資料1～4）

今年度新計画に関し意見をいただく範囲とともに、昨年度の検討経緯及び策定スケジュールについて説明。

3. 新計画の基本的な施策の方向性について（資料5～7）

平成25年度第3回会議で示した「基本的な施策の方向性（案）」と次期総合計画（素案）の方向性との整合、新計画の組み立て方について説明。

○委員発言概要

〔資料5 基本的な施策の方向性（案）〕

- ・現状の「家庭内での死亡事故の最多原因：ヒートショックによる浴槽内での溺死・溺水」は、「高齢者」に関する課題でもある。
- ・「まちなか・公共交通沿線軸」「身近な住環境」に関する現状データとして、自動車交通への依存度や身近な公園の状況などが考えられる。

〔資料6 次期総合計画（素案）と基本的な施策の方向性（案）の関係について〕

- ・施策18「健幸都市づくり（スマートウェルネスシティ）の推進」は、住宅のバリアフリーなどの「高齢者」に関する方向性と、「まちなか・公共交通沿線軸」の身近な住環境

で歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりの方向性が関連する。

- ・次期総合計画では、既存産業の育成や新産業の創出といった施策について検討されている。このような施策によりU I Jターンで戻ってこられる方々に対する住まいの提供といった住宅部門における課題が出てくると思われる。
- ・これから定年を迎える方々は、まちなかでの暮らしを望む声が多い。一方、70歳代以上の方々は、生まれ育ったところでの暮らしを望む声が多い。これら両方の需要があることを考慮して計画をつくってもらいたい。

[資料7 新計画の組み立て方について]

- ・施策展開の際には、議論が細分化しやすくなるので、目標とする「暮らし像」を十分確認しながら、施策を組み立てていく必要がある。

4. 現計画に基づく施策の実施状況について（資料8、9）

平成25年度の施策の実施状況、平成26年度の施策の実施予定を説明。

5. 現計画における指標の達成状況について（資料10）

平成25年度における各指標の達成状況について説明。

6. 閉会

（省略）

【配布資料】

- ・資料1 にいがた住まいの基本計画推進有識者会議開催要綱 新旧対照表
- ・資料2 にいがた住まいの基本計画推進有識者会議 委員名簿
- ・資料3 （仮称）新・にいがた住まいの基本計画の全体構成（案）
- ・資料4 （仮称）新・にいがた住まいの基本計画の策定スケジュールについて
- ・資料5 基本的な施策の方向性（案）
- ・資料6 次期総合計画（素案）と基本的な施策の方向性（案）の関係について
- ・資料7 新計画の組み立て方について
- ・資料8 にいがた住まいの基本計画に基づく主な施策・事業等一覧
- ・資料9 にいがた住まいの基本計画に基づく重点施策・事業等一覧
- ・資料10 にいがた住まいの基本計画における指標の達成状況について